

令和8年度

進修同窓会総会

卒業60・50・40・25・15周年記念祝賀式



日 時 令和8年4月25日（土）

会 場 総会・祝賀式：土浦第一高等学校体育館

〒300-0051 茨城県土浦市真鍋4丁目4番2号

TEL 029-822-0137

FAX 029-826-3521

<http://www.sin-syu.jp/>

E-mail : shinshu@tsuchiura1-h.ibk.ed.jp

茨城県立土浦第一高等学校校歌

作詞 堀越 晋・作曲 尾崎楠馬

1. 沃野一望数百里 関八州の重鎮とて
そそりたちたり筑波山 空の碧をさながらに
湛えて寄する漣波は 終古渝らぬ霞浦の水
2. 春の弥生は桜川 其の源の香を載せて
流に浮かぶ花筏 芦の枯葉に秋立てば
渡る雁声冴えて 湖心に澄むや月の影
3. 此の山水の美を享けて 我に寛雅の度量あり
此の秀麗の気を享けて 我に至誠の精神あり
東国男児の血を享けて 我に武勇の気魄あり
4. 筑波の山のいや高く 霞ヶ浦のいや広く
嗚呼桜水の旗立てて 我が校風を輝かせ
亀城一千の健男児 亀城一千の健男児

土浦一高賛歌

作詞 幡谷 祐一
作曲 池辺晋一郎

創学百年紫の

筑波の秀峰仰ぎつつ
紙筆に励み身体を鍛え
亀城の空は今晴れて
栄光に立つ土浦一高

広き心は霞ヶ浦の
水の清さと深き思慮
智力と技を磨きたる
亀城の友は巢立ちゆく
栄光に立つ土浦一高

先人の残せし訓 胸に留め
自主・協同・責任を
一途に守り直き道
亀城育ちの意気爽やか
栄光に立つ土浦一高

令和8年度 進修同窓会総会次第

令和8年4月25日（土）13時から
於 土浦一高体育館

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 学校長あいさつ
- 4 議長選出
- 5 議 事

（1）第1号議案

- ① 令和7年度事業報告
- ② 令和7年度決算報告及び監査報告

（2）第2号議案

- ① 役員改選について

（3）第3号議案

- ① 令和8年度事業計画（案）
- ② 令和8年度予算（案）

（4）第4号議案

- ① 創立130周年記念事業について

（5）その他

- ① 留学中の生徒を78回生と認定することについて

6 連絡事項

- ①今年度及び次年度の総会・・・土浦一高体育館
- ②周年事業祝賀会場
2026（令和8）年4月25日（土）（ホテルマロウド筑波1Fのみ予約）
2027（令和9）年4月24日（土）（ホテルマロウド筑波全館予約）

7 閉会のことば

第1号議案 令和7年度事業報告及び決算報告

令和7年度 事業報告

[本部関係]

令和7年 4月26日(土) 同窓会総会及び周年記念祝賀式
令和7年 6月17日(火) 会報(第82号)編集委員会
令和7年 9月16日(火) 会報(第82号)編集委員会
令和7年10月11日(土) 臨時役員会
令和7年10月18日(土) 卒業周年記念祝賀式説明会
令和7年10月21日(火) 会報(第82号)編集委員会
令和7年12月 1日(月) 会報(第82号)発行
令和8年 2月27日(金) 新入会員入会式
令和8年 3月 9日(月) 同窓会会計監査
令和8年 3月21日(土) 同窓会役員会・評議員会

[支部総会関係]

令和7年 5月18日(日) 真鍋支部総会
令和7年 6月 8日(日) 東進会総会
令和7年 6月16日(月) 茨城県庁進修同窓会
令和7年 7月 6日(土) 牛久支部会
令和7年 7月26日(土) 筑波銀行桜水会例会
令和7年 8月 9日(土) つくば支部会
令和7年 10月18日(土) 東葛支部総会
令和7年 11月15日(土) 取手支部桜水クラブ総会
令和7年 11月15日(土) 土浦支部会
令和7年 11月22日(土) 上大津支部会
小美玉支部会

[旧本館活用委員会]

1 委員会

定例委員会 隔週の火曜日に活動 24回
臨時委員会 定例以外の火曜日 24回 「アカンサス」編集等

2 委員会のおもな活動

- 寄贈資料の台帳作成
- 在校生向け『アカンサス』の発行(11回)及びホームページへの掲載
- ホームページの更新作業
- 一般公開に向けての展示準備作業(特に、理科器具展示室を重点的に実施)
- 一般公開(4/12、5/10)

3 その他

- 一高祭期間中、旧本館の特別公開を実施しました。
- 旧本館廊下天井の漆喰壁崩落があり、6月以降の一般公開を中止しました。
- 11月にはNHK 朝ドラ「風、薫る」のロケがありました。

令和7年度 進修同窓会決算書

収入総額 14,611,311円
 支出総額 10,336,697円
 差引残額 4,274,614円 (次年度へ繰越)

収入の部

単位:円

項 目	予算額	決算額	比較増減(△)	備 考
1 繰 越 金	3,127,732	3,127,732	0	前年度繰越金
2 終 身 会 費	60,000	443,000	383,000	11名
3 年 会 費	7,000,000	6,850,000	△ 150,000	2,114名
4 入 会 金	1,265,000	1,270,000	5,000	新会員 計254名×5,000円
5 繰 入 金	1,150,000	1,150,000	0	別途積立金会計より
6 寄 付 金	0	1,767,310	1,767,310	下記「ご寄付者名」参照
7 雑 収 入	268	3,269	3,001	預金利息
合 計	12,603,000	14,611,311	2,008,311	
ご寄付者名	美浦支部様・昭34年(定)入学 廣瀬一三様・高23回卒業1年D組同窓会ご一同様・高37回卒業生ご一同様・高12回卒業生ご一同様・東葛支部解散に伴う寄付			

支出の部

(残額欄の△は決算額が予算額を超過していることを示す。)

項 目	予算額	決算額	残 額	備 考
1 総 会 補 助	450,000	460,742	△ 10,742	総会資料、会場設営経費等
2 会 報 発 行 費	3,600,000	3,516,724	83,276	会報印刷、発送代
3 通 信 費	100,000	52,741	47,259	HP管理費、はがき代
4 卒 業 記 念 品 費	300,000	305,160	△ 5,160	卒業証書ホルダー
5 卒 業 周 年 記 念 品 費	300,000	0	300,000	卒業周年記念品
6 会 議 費	350,000	201,680	148,320	役員会、評議員会経費
7 支 部 連 絡 費	350,000	220,000	130,000	支部会補助(11支部)
8 生 徒 奨 励 費	1,200,000	1,100,000	100,000	生徒会補助
9 生 徒 活 動 補 助 費	800,000	603,428	196,572	部活動・生徒活動補助
10 別 途 積 立 金	1,000,000	500,000	500,000	別途積立金会計へ
11 慶 弔 費	100,000	0	100,000	
12 事 務 局 費	1,000,000	892,888	107,112	担当者手当、郵便振替手数料等
13 旧本館活用事業費	1,950,000	2,149,790	△ 199,790	展示ケース台、旧本館公開諸経費等
14 海 外 研 修 旅 費	800,000	333,544	466,456	海外研修諸経費
15 予 備 費	303,000	0	303,000	
合 計	12,603,000	10,336,697	2,266,303	

上記のとおり決算しました。

令和8年3月9日

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 小野 治

監査の結果、上記のとおり相違ないことを認めます。

令和8年3月9日

監事 草 莉 宏 明 ㊞

監事 鴻 巣 茂 ㊞

監事 杉 山 博 ㊞

令和7年度会費納入状況

納入総額 **2,125 名** **7,293,000 円**
(年会費 2,114名 終身会費 11名)

(1)年会費

卒業回	人数	金額	備考	卒業回	人数	金額	備考	卒業回	人数	金額	備考
中1～35	0	0		昭39・高16	39	117,000		平8・高48	18	54,000	
昭12・中36	0	0		昭40・高17	48	144,000		平9・高49	13	39,000	
昭13・中37	0	0		昭41・高18	65	195,000		平10・高50	20	60,000	
昭14・中38	0	0		昭42・高19	59	177,000		平11・高51	12	36,000	
昭15・中39	0	0		昭43・高20	48	144,000		平12・高52	16	48,000	
昭16・中40	2	6,000		昭44・高21	40	120,000		平13・高53	15	45,000	
昭17・中41	0	0		昭45・高22	35	105,000		平14・高54	9	27,000	
昭18・中42	0	0		昭46・高23	51	153,000		平15・高55	16	48,000	
昭19・中43	1	3,000		昭47・高24	27	81,000		平16・高56	12	36,000	
昭20・中44	1	3,000		昭48・高25	42	126,000		平17・高57	13	39,000	
昭20・中45	2	6,000		昭49・高26	50	150,000		平18・高58	8	24,000	
昭21・中46	0	0		昭50・高27	103	309,000		平19・高59	4	12,000	
昭22・中47	2	6,000		昭51・高28	40	120,000		平20・高60	12	36,000	
昭23・中48	2	6,000		昭52・高29	49	147,000		平21・高61	9	27,000	
昭24・中49	1	3,000		昭53・高30	28	84,000		平22・高62	12	36,000	
併中1	1	3,000		昭54・高31	31	93,000		平23・高63	6	18,000	
併中2	0	0		昭55・高32	34	102,000		平24・高64	8	24,000	
昭24・高1	1	3,000		昭56・高33	30	90,000		平25・高65	13	39,000	
昭25・高2	5	15,000		昭57・高34	28	84,000		平26・高66	5	15,000	
昭26・高3	10	30,000		昭58・高35	39	117,000		平27・高67	9	27,000	
昭27・高4	12	36,000		昭59・高36	39	117,000		平28・高68	11	33,000	
昭28・高5	12	36,000		昭60・高37	35	105,000		平29・高69	8	24,000	
昭29・高6	21	63,000		昭61・高38	33	99,000		平30・高70	10	30,000	
昭30・高7	19	57,000		昭62・高39	27	81,000		平31・高71	8	24,000	
昭31・高8	16	48,000		昭63・高40	29	87,000		令2・高72	15	45,000	
昭32・高9	35	105,000		平元・高41	24	72,000		令3・高73	0	0	
昭33・高10	26	78,000		平2・高42	26	78,000		令4・高74	0	0	
昭34・高11	32	96,000		平3・高43	13	39,000		令5・高75	0	0	
昭35・高12	32	96,000		平4・高44	17	51,000		令6・高76	0	0	
昭36・高13	32	96,000		平5・高45	19	57,000		令7・高77	0	0	
昭37・高14	36	108,000		平6・高46	28	84,000		令8・高78	234	1,170,000	
昭38・高15	36	108,000		平7・高47	25	75,000		小計	2,054	6,630,000	

卒業回	人数	金額	備考	卒業回	人数	金額	備考	卒業回	人数	金額	備考
昭27・定1	0	0		昭59・定33	0	0		平28・定65	0	0	
昭28・定2	2	6,000		昭60・定34	0	0		平29・定66	0	0	
昭29・定3	0	0		昭61・定35	0	0		平30・定67	2	6,000	
昭30・定4	0	0		昭62・定36	1	3,000		平31・定68	0	0	
昭31・定5	0	0		昭63・定37	0	0		令2・定69	0	0	
昭32・定6	2	6,000		平元・定38	0	0		令3・定70	0	0	
昭33・定7	0	0		平2・定39	0	0		令4・定71	0	0	
昭34・定8	0	0		平3・定40	0	0		令5・定72	0	0	
昭35・定9	1	3,000		平4・定41	0	0		令6・定73	0	0	
昭36・定10	2	6,000		平5・定42	0	0		令7・定74	0	0	
昭37・定11	2	6,000		平6・定43	0	0		令8・定75	20	100,000	
昭38・定12	0	0		平7・定44	0	0					
昭39・定13	4	12,000		平8・定45	0	0		定時制部会		0	
昭40・定14	1	3,000		平9・定46	0	0		通信制	1	3,000	
昭41・定15	5	15,000		平10・定47	0	0		小計	60	220,000	
昭42・定16	2	6,000		平11・定48	0	0		合計	2,114	6,850,000	
昭43・定17	0	0		平12・定49	0	0					
昭44・定18	2	6,000		平13・定50	0	0					
昭45・定19	1	3,000		平14・定51	2	6,000					
昭46・定20	0	0		平15・定52	0	0					
昭47・定21	1	3,000		平16・定53	0	0					
昭48・定22	1	3,000		平17・定54	0	0					
昭49・定23	0	0		平18・定55	0	0					
昭50・定24	4	12,000		平19・定56	0	0					
昭51・定25	1	3,000		平20・定57	0	0					
昭52・定26	0	0		平21・定58	0	0					
昭53・定27	1	3,000		平22・定59	0	0					
昭54・定28	0	0		平23・定60	0	0					
昭55・定29	0	0		平24・定61	2	6,000					
昭56・定30	0	0		平25・定62	0	0					
昭57・定31	0	0		平26・定63	0	0					
昭58・定32	0	0		平27・定64	0	0					

(2)終身会費

卒業回	人数	金額	備考
高13回	1	30,000	
高25回	1	30,000	
高32回	1	50,000	
高32回	1	30,000	
高35回	1	33,000	
高37回	1	30,000	
高39回	1	30,000	
高40回	1	50,000	
高47回	1	30,000	
高53回	1	100,000	
高67回	1	30,000	
合計	11	443,000	

令和7年度 進修同窓会別途積立金決算書

収入総額	43,545,780円
支出総額	2,150,000円
差引残額	41,395,780円（次年度へ繰越）

一般会計の収入不足、生徒会活動の奨励金、その他に備えて「別途積立金」を設ける。
但し、「別途積立金」は役員会の承認を経て支出することができる。

収入の部

項 目	予算額	決算額	比較増減(△)	備 考
1 繰 越 金	39,266,433	39,266,433	0	前年度繰越
2 記念誌売上代	0	60,000	60,000	記念品売上代(賛助金)
3 名 簿 売 上 代	0	4,200	4,200	1冊
4 繰 入 金	1,000,000	4,171,110	3,171,110	進修同窓会会計より 500,000円 周年記念品積立口座より 3,671,110円
5 雑 収 入	567	44,037	43,470	預金利息
合 計	40,267,000	43,545,780	3,278,780	

支出の部

項 目	予算額	決算額	比較増減(△)	備 考
1 旧本館活用事業費	1,150,000	1,150,000	0	進修同窓会会計繰入金へ (展示ケース台整備 10台)
2 教育活動補助費	0	1,000,000	1,000,000	在校生遠征費(全国・関東大会経費)補助
合 計	1,150,000	2,150,000	1,000,000	

上記のとおり決算しました。

令和8年3月9日

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 小野 治

監査の結果、上記のとおり相違ないことを認めます。

令和8年3月9日

監事 草薙 宏明 ㊞

監事 鴻巣 茂 ㊞

監事 杉山 博 ㊞

※印は新任者

進 修 同 窓 会 役 員 (案)			
顧問	高 4	幡 青	史 義
	高 8	大 長	一 男
	高 8	谷 小	勉 治
	高 11	山 野	勇 一
校長		瀬 津	哉 琴
会 長	高 9	野 塚	了 雄
副 会 長	高 13	塚 戸	一 道
	高 17	山 井	寿 人
	高 18	邊 原	一 明
	高 18	井 木	一 雄
	高 18	崎 谷	美 育
	高 19	田 野	※
	高 20	澤 本	※
	高 21	延 竹	※
	高 21	田 田	※
	高 21	田 田	※
	高 23	須 草	
	高 25	鴻 杉	
	高 27	飯 桜	
	高 29	石 武	
	高 31	田 渡	
	高 33	原 助	
	高 35	黒 斉	
副校長(全)	高 43	桜 小	
教頭(全)	高 43	阿 野	
教頭(定)		久 保	
教頭(全中)		大 鈴	
監 事	定 10	伊 酒	
	高 21	江 大	
	高 24	久 尾	
本部幹事	高 5	大 吉	
	高 4	柴 伊	
	高 13	青 櫻	
	高 15	櫻 荻	
	高 18	金 加	
	高 20	松 井	
	高 20	藤 井	
	高 21	藤 井	
	高 23	藤 井	
	高 27	藤 井	
	高 27	藤 井	
	高 28	藤 井	
	高 28	藤 井	
	高 29	藤 井	
	高 29	藤 井	
	高 30	藤 井	
	高 31	藤 井	
	高 33	藤 井	
	高 34	藤 井	
	高 37	藤 井	
	高 39	藤 井	
	高 40	藤 井	
	高 41	藤 井	
	高 44	藤 井	
	高 45	藤 井	
	高 49	藤 井	
	定 53	藤 井	
	高 52	藤 井	
	高 59	藤 井	
校内幹事	高 49	藤 井	
事務室長		藤 井	
教 諭	高 49	藤 井	

進修同窓会規約

- 第1条 本会は、茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会（以下、同窓会という。）と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、且つ母校の発展に協力することを目的とする。
- 第3条 本会は、事務局を茨城県立土浦第一高等学校内に置く。
- 第4条 本会は、下記の会員で組織する。
- (1) 正会員 ①茨城県立土浦中学校並びに併設中学校、茨城県立土浦第一高等学校及び茨城県立土浦第一高等学校附属中学校の各々卒業生。
②本校に在籍した者で同期が推薦し総会の承認を得た者。
 - (2) 名誉会員 母校の現職員及び旧職員。
- 第5条 本会に次の役員を置く。
- 2 役員の選出及び任務は、それぞれ次のとおりとする。
 - (1) 顧問 若干名。母校の現校長及び本会に功労のあった者を総会に諮って推挙する。
 - (2) 会長 1名。会員の中から総会で選出する。本会を代表し、会務を総理する。会長に事故ある時は、会長が予め指定した副会長がその職務を代理する。
 - (3) 副会長 若干名、会長が会員の中から任命し、総会で承認を得る。但し、母校の副校長、教頭並びに東京支部長、土浦市内の支部長、水戸支部長及びつくば支部長をこれに充てる。会長を補佐する。
 - (4) 評議員 支部長及び各回幹事から2名以内で選出された者。本会の重要な事項について会長の諮問に応じてこれを審議する。
 - (5) 本部幹事 40名以内。会長が会員の中から評議員会に諮り、会長が任命する。会長・副会長を補佐し、同窓会事務の企画・運営に当たる。本部幹事のうち4名を常任幹事とし、常任幹事は、それぞれ同窓会の総務、財務、広報及び事務局の総括を担当する。
 - (6) 校内幹事 若干名。母校在職の会員の中から会長が任命する。本会の庶務・会計の事務を処理する。
 - (7) 各回幹事 各回若干名。各回の会員が互選する。同期生間の連絡調整並びに母校及び同窓会との連絡に当たる。
 - (8) 監事 3名。会長が会員の中から任命し、総会で承認を得る。本会の会計を監査する。
 - (9) 選考委員 若干名。会長が必要に応じて、現校長、副会長及び本部幹事の中から選出する。会員の中から会長の人選に当たり、総会に諮る。
- 第6条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。補充役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 第7条 本会は、適当の地域・職域に支部を設ける。支部長は、支部で選出し、会員同士の親睦並びに母校及び同窓会との連絡を図る。
- 2 本会に、定時制部会を置く。
- 第8条 本会は、年1回総会を開く。その時期は、4月とする。
- 第9条 本会は、年1回評議員会を開く。但し、会長が必要と認めるときは、評議員会及び正副会長会議を開くことができる。
- 第10条 本会正会員は、入会金として、第4条(1)①の会員5,000円、但し、附属中学校から引き続き高校へ進学した会員は、免除する。第4条(1)②の会員10,000円以上を納入する。
- 第11条 本会は、毎年同窓会報を発行し会員に配付するとともに、5年毎に会員名簿を発行する。
- 第12条 本会の経費は、第10条の入会金、年会費、終身会費及び篤志寄付金を以って充てる。
- 2 年会費は、卒業年から5年間は1,000円とし、卒業時に5ヶ年分を前納し、6年目以降は、3,000円以上とする。
 - 3 終身会費は、30,000円以上とする。
- 第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
- 第14条 会長は、毎年事業計画及び予算書を作成し、評議員会の議決を経て総会に諮る。
- 第15条 会長は、毎年決算書を作成し、議決を経て総会の承認を得なければならない。
- 第16条 本会は、卒業60周年、50周年、40周年、25周年、15周年（但し、定時制課程の3修3卒者においては、次年も招待する）に当たる会員を総会の時に招待し祝賀する。
- 第17条 本会の名誉を著しく高揚した者、本会のため功績顕著な者に対しては、評議員会の審議を経て総会において表彰する。
- 第18条 本会の規約の改正は、総会出席者の3分の2以上の同意を得なければならない。

附 則

昭和53. 4. 8改正 平成 4. 4. 12改正 平成 6. 4. 10改正 平成 7. 4. 9改正 平成 9. 4. 13改正
平成11. 4. 11改正 平成22. 4. 11改正 平成24. 4. 8改正 平成25. 4. 14改正 平成27. 4. 11改正
平成31. 4. 14改正 令和 2. 4. 12改正 令和 4. 3. 26改正

第3号議案 令和8年度事業計画(案)及び予算(案)

令和8年度事業計画(案)

[本部関係]

- 1 母校との緊密な連携、援助
- 2 支部活動の奨励
- 3 会報の発刊
- 4 母校生徒会活動への援助と新入会員の歓迎
- 5 役員会・評議員会・総会・周年記念祝賀式の開催
- 6 創立130周年記念事業の支援
- 7 その他目的達成のための活動

[旧本館活用委員会関係]

- 1 土浦一高（旧制土浦中学校）に関する資料収集の推進
- 2 旧本館公開に向けて、展示品の整理及び展示室の整備
- 3 同窓会ホームページの活用（アカンサスの掲載継続）
- 4 文化財指定等で公開している建物についての、公開、管理状況の調査

令和8年度 進修同窓会予算書(案)

収入総額 12,828,000円
支出総額 12,828,000円

収入の部

単位：円

項 目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)	備 考
1 繰越金	4,274,614	3,127,732	1,146,882	前年度繰越金
2 終身会費	300,000	60,000	240,000	終身会費 30,000円以上
3 年会費	7,000,000	7,000,000	0	年会費 3,000円以上
4 入会金	1,250,000	1,265,000	△ 15,000	250名(全236・定14) × 5,000円
5 繰入金	0	1,150,000	△ 1,150,000	
6 雑収入	3,386	268	3,118	預金利息
合 計	12,828,000	12,603,000	225,000	

支出の部

項 目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)	備 考
1 総会費	1,000,000	450,000	550,000	総会資料、卒業周年記念品代等
2 会報発行費	3,800,000	3,600,000	200,000	会報印刷、発送代
3 通信費	100,000	100,000	0	H P管理費、切手・はがき代等
4 卒業記念品費	350,000	300,000	50,000	卒業証書用ホルダー
5 卒業周年記念品費	0	300,000	△ 300,000	
6 会議費	350,000	350,000	0	役員会、評議員会等経費
7 支部連絡費	350,000	350,000	0	支部会補助
8 生徒奨励費	1,100,000	1,200,000	△ 100,000	生徒会補助、生徒会活動功労賞
9 生徒活動補助費	1,800,000	800,000	1,000,000	生徒教育活動補助
10 別途積立金	1,000,000	1,000,000	0	別途積立金会計へ
11 慶弔費	100,000	100,000	0	香料、弔電代
12 事務局費	1,000,000	1,000,000	0	担当者手当、郵便振替手数料等
13 旧本館活用事業費	700,000	1,950,000	△ 1,250,000	旧本館活用事業費等
14 海外研修旅費	800,000	800,000	0	生徒海外研修旅費等補助
15 予備費	378,000	303,000	75,000	
合 計	12,828,000	12,603,000	225,000	

※項目間の流用を認める。

上記のとおり提案いたします。

令和8年4月25日

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長

令和8年度 進修同窓会別途積立金予算書（案）

収入総額 42,441,000円

支出総額 0円

収入の部

単位：円

項 目	予算額	前年度予算額	比較増減（△）	備 考
1 繰 越 金	41,395,780	39,266,433	2,129,347	前年度繰越金
2 記 念 誌 売 上 代	0	0	0	記念誌「進修120年」
3 名 簿 売 上 代	0	0	0	
4 繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	進修同窓会会計より
5 雑 収 入	45,220	567	44,653	預金利息
合 計	42,441,000	40,267,000	2,174,000	

支出の部

単位：円

項 目	予算額	前年度予算額	比較増減（△）	備 考
1 旧本館活用事業費	0	1,150,000	△ 1,150,000	
2 教育活動補助費	0	0	0	前年度生徒遠征費補助 決算額1,000,000円
合 計	0	1,150,000	△ 1,150,000	

上記のとおり提案いたします。

令和8年4月25日

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長

第4号議案 創立130周年記念事業について

土浦一高創立130周年記念事業について（案）

◎令和7年10月11日臨時役員会で、土浦一高創立130周年記念事業実行委員会発足の承認

◎令和8年3月21日定例役員会・評議員会において詳細の追加承認

●実行委員会（進修同窓会関係） 委員長・副委員長・事務局のみ記載。他委員等は後日依頼

委員長	：	進修同窓会会長	小野 治	（高9回）	
副委員長	：	同 副会長	竹井 茂雄	（高19回）	記念物品贈呈委員会委員長
		同 副会長	渡邊 慎一	（高20回）	記念講演委員会委員長
		同 副会長	松井 泰寿	（高21回）	会員名簿作成委員会委員長
		同 副会長	武井 秀一	（高23回）	総務委員会委員長
		同 副会長	豊崎 利明	（高25回）	記念誌編纂委員会副委員長
					（※委員長は土浦一高 副校長、10年間の教育活動の記録）
		同 副会長	杉田 幸雄	（高29回）	記念式典委員会委員長
事務局		同 本部幹事	助川 博夫	（高21回）	

●記念事業の内容

記念式典・記念講演会・記念詩編纂・母校への記念物品贈呈・同窓会会員名簿作成

●事業の予算

- 総額で1000万円
- 記念式典・講演会会費経費
 - ・看板作成、講師謝金、当日配付パンフレット作成、関係者昼食等：200万円
- 記念誌編纂経費（冊子は作らないで、QRコードからデータを読み取る方向）：200万円
- 母校土浦一高へ記念物品贈呈：500万円
- 予備費：100万円
- 募金を行わないで、進修同窓会別途積立金の一部を充てる。（役員会で承認済み）

●記念式典及び記念講演会について

令和9年11月20日（土）

- 記念式典 時間： 午前9時30分～10時30分
場所： 土浦一高体育館及び体育館階下武道場等
参加者： 高校生720名 附属中学生240名 定時制50名、教職員100名
進修同窓会役員50名 一般会員50名（予定）
来賓（県教委等関係者、旧職員、県南地区高校長、市内中学校長）50名
保護者200名（予定） （合 計）最大で1450名（予定）
- 記念講演会 時間： 午前10時50分～12時
場所及び参加者： 上記と同じ
講師の人選等は、今後記念講演委員会を中心に進める。

【評議員名簿】

支部長〔地域支部〕

土	浦	高 21	小	原	芳	道
高	津	高 15	宮	本	幸	男
真	鍋	高 18	高	山	了	
「新設」	上	高 12	池	田	輝	雄
龍	ヶ	高 12	山	村	邦	男
真	壁	高 11	飯	泉	春	長
小	美	高 17	出	頭		整
東	葛			「解	散」	
宮	城	高 6	塚	田		昇
北	海					
阿	見					
岩	間					
日	立					
県	庁	高 37	久	保	田	博
筑	波	高 32	尾	崎		聡

土	浦	三	中	地	区	
小	松	高 10	廣	瀬	昭	雄
新	治	高 18	田	上		顯
牛	久	高 14	宮	本	武	憲
取	手	高 24	杉	山		博
八	郷	高 14	三	輪	康	史
水	戸	高 17	大	竹	伸	一
東	京	高 18	飯	塚	哲	哉
つ	く	高 27	田	谷	光	一
日	本					
豊						
潮						

常	陽	亀	城	会	高 36	石	田	幸	裕
上	海	支	部	高 29	矢	口	孝	則	

各 回 評 議 員

中 40	梅	澤	正	之	進
中 42					
中 43	横	田	照	治	
中 45					
中 47	井	坂			雄
中 49	真	中	義	雄	
高 2					
高 4					
高 5					
高 7	住	尾			勉
高 9	古	森	貞	弘	
高 11	長	瀬	宗	男	
高 13	堀	越		昭	
高 15	島	田	卓	光	
高 16	五	頭	英	明	
定 14	山	中	輝	男	
高 18	鈴	木	志	郎	
高 20	長	峰	一	男	
高 22	荻	沼	秀	一	
高 24	海	老	原	一	郎
高 26	富	田		格	
高 28	小	城		豊	
高 30	野	澤		博	
高 32	下	條	卓	造	
高 33	片	岡	達	郎	
高 35	塚	本	一	也	

中 41					
中 43	高	橋			秀
中 44					
中 46	久	保	木	康	輔
中 48					
高 1					
高 3					
高 5					
高 6	田	村	敏	明	
高 8	本	川	軍	治	
高 10	鈴	村	博	一	
高 12	瀧	ヶ	崎	洋	之
高 14	南		隆	男	
高 15	野	村	ル	ナ	
高 16	石	田	栄	一	
高 17	坂	本		栄	
高 19	須	賀	英	夫	
高 21	柴	沼	和	広	
高 23	藤	澤		宏	
高 25	前	島	寛	誠	
高 27	桜	井		浩	
高 29	島	岡	宏	明	
高 31	茂	木	久	和	
高 32	原		光	広	
高 34	加	治	行	雄	
高 36	大	曾	根	靖	夫

高 37	齊	藤	康	彦
高 39	日比	野		有
高 41	矢	口	和	弘
高 43	目	次	康	男
高 45	吉	田		謙
高 47	中	山	雅	博
高 49	松	井	泰	道
高 50	小	池	利	明
定 47	鈴	木	信	行
高 52	戸	谷	義	治
高 54	兵	頭	翔	洋
高 55	島	田	達	也
高 56	辻		尚	宏
定 53	内	田	健	人
高 57	沖	田	賢	亮
高 58	八	木	太	一
高 59	内	山	昌	博
高 60	長	谷	龍	骨
高 61	井	原	謙	太郎
高 62	倉	内	裕	史
高 63	島	田		董
高 64	一	色	竜	杜
高 65	原	部	直	輝
高 66	藤	井	章	太
高 67	大	藤	由	紘
高 68	関		俊	希
高 69	山	口	航	平
高 70	森		裕	介
高 71	小	林	萌	愛
高 72	宮	田	明	音
高 73	大	島	弘	也
高 74	鶴	町		開
高 75	藤	原	桃	子
高 76	山	中	慧	治
高 77	松	本	のぶ	か
高 78	斎			歩
定 75	馬	籠	遥	鳳

高 38	村	上	太	郎
高 40	大	川	政	則
高 42	木	島	則	幸
高 44	小	倉	洋	平
高 46	中井	川	大	助
高 48	小	野	重	満
高 49	青	山	大	人
高 51	木	村	友	和
高 51	飛	澤	美	樹
高 53	島	田	秀	瑛
高 55	坪	松	章	人
定 52	工	藤	圭	太
高 56	菱	沼	智	之
定 53	櫻	井	忠	男
定 54	佐々	木	真	樹
定 55	酒	井	義	正
定 56	酒	井	彩	芳
定 57	山	下	一	宏
定 58	兒	玉	拓	也
定 59	鈴	木	真	介
定 60				
定 61	寺	門	広	人
定 62	高	花	翔	太
定 63	佐	藤		翼
定 64	鳴	海		聖
定 65	佐	藤	香	雪
定 66	入	田	杏	壺
定 67	山	口	陸	冬
定 68	遠	藤	美	咲
定 69	塚	本	光	晟
定 70	根	崎	伊	吹
定 71	久	松	綾	香
定 72	小	林	大	樹
定 73	佐	藤	寛	太
定 74	岩	瀬	望	海
定 75	小	勝	桂	音

進修同窓会旧本館活用委員会規則

(設置)

第1条 進修同窓会に、進修同窓会旧本館活用委員会(以下「委員会」という)をおく。

(目的)

第2条 委員会は、土浦一高(旧制土浦中学校)に関する資料を収集し、学校と連携しながら、旧本館の活用事業を推進することを目的とする。

(組織)

第3条 委員会の定数は、校内委員若干名を含め、20名程度とする。

(委嘱)

第4条 委員は、進修同窓会会員の中から進修同窓会会長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の補欠の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任をさまたげない。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長1名、副委員長2名をおく。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。ただし、副委員長のうち1名は教頭をもってあてる。

3 委員長は委員会を代表し、会務を主宰する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、または委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(事業)

第7条 委員会は、旧本館の活用を図るため、次の各号に掲げる事業を行う。

(1) 土浦一高(旧制土浦中学校)に関する資料の収集。

(2) 旧本館資料展示室における展示の改善。

(3) 旧本館における各種資料の良好な保存環境の維持。

(4) 所蔵する資料及び新たに収集する資料の整理、保存。

(5) 旧本館の一般公開に係る事業。

(6) その他、旧本館の活用に意義のある事業。

(庶務)

第8条 庶務は、進修同窓会本部事務局において処理する。

この規約は、平成14年4月14日から施行する。

旧本館活用委員会委員一覧

役 職	卒回等	氏 名
委員長	高21	助 川 博 夫
副委員長	副校長(高43)	松 延 亮 一
副委員長	高20	原 田 晋 市
委員	兼事務室長	加 藤 健 司
委員	高 5	飯 村 弘
委員	定 4	桜 井 光 孝
委員	高19	小 泉 明
委員	高19	竹 井 茂 雄
委員	高20	渡 邊 慎 一
委員	高20	林 和 男
委員	高21	鈴 木 義 人
委員	高21	松 井 泰 寿
委員	高21	鴻 巣 茂
委員	高21	鈴 木 道 信
委員	高21	中 泉 多 詔
委員	高23	黒 岩 英 行
委員	高27	斉 藤 昇
委員	高27	桜 井 浩
委員	高29	永 井 博
委員	高33	久保田 高広
委員	高40	大 塚 健 司

令和8年度

卒業60・50・40・25・15周年記念

祝賀式次第

令和8年 4月25日（土）総会終了後

司会：本部

- 1 開式のことば ()
- 2 主催者あいさつ (小野 治 会長)
- 3 祝辞 (高29回島岡 宏明 様)
- 4 記念品贈呈 会長から各回代表者へ
- 5 謝辞 (高28回：一ノ瀬 正樹 様)
- 6 閉式のことば ()

卒業60周年 [高校18回 (昭41年卒) 定16回 (昭42年卒)]
卒業50周年 [高校28回 (昭51年卒) 定26回 (昭52年卒)]
卒業40周年 [高校38回 (昭61年卒) 定36回 (昭62年卒)]
卒業25周年 [高校53回 (平成13年卒) 定51回 (平成14年卒)]
卒業15周年 [高校63回 (平成23年卒) 定61回 (平成24年卒)]

祝辞

高29回卒業生代表 島岡 宏明

本日のこの佳き日に、卒業 60 周年・50 周年・40 周年・25 周年・15 周年を迎えられた皆様、誠におめでとうございます。改めまして、心よりお慶び、お祝いを申し上げます。

本日ここにお集まりの皆様は、それぞれの時代において母校である土浦一高を巣立たれ、異なる時代背景の中でそれぞれの人生を歩んでこられました。しかしながら、あの学び舎で過ごした日々、青春の真っ只中で培われた友情や経験は、時代や年齢を超えて、皆様の心の中に今なお鮮やかに息づいていることと拝察いたします。思い出だけで胸が熱くなるような日々が、今日の皆様を支える大きな力となっているのではないのでしょうか。

また、年月を重ねるごとに、母校への想い、そしてそこで得た学びへの自信や誇りが一層深まっていく——そのように感じておられる方も多いのではないかと存じます。

母校で培われた精神や価値観は、人生の節目節目において皆様の指針となり、今日までの歩みを力強く支えてこられたことと存じます。

私たち卒業生の心の奥底には、「ふるさとのために」「社会のために」「日本のために」少しでも貢献したいという想いが息づいており、「土浦一高を卒業した」という自負が、その礎となっているのではないのでしょうか。その志こそが、世代を超えて受け継がれる本校の大きな財産であると確信しております。

さて、現在の社会に目を向けますと、少子化や人口減少、労働力不足、物価高騰、異常気象、さらには国際情勢の不安定化など、私たちを取り巻く環境は決して平坦なものではございません。しかしながら、このような時代であるからこそ、土浦一高で学んだ精神を礎に、先輩・後輩、そして関係者の皆様が力を合わせ、それぞれの立場で知恵を出し合い、支え合いながら歩んでいくことが、より一層重要であると感じております。

皆様お一人おひとりのこれまでの歩みとご尽力が、ご家族の幸せを支え、茨城の発展につながり、ひいては日本の安寧に寄与してきたことに、深い敬意を表するものでございます。そしてその積み重ねが、これからの母校土浦一高のさらなる発展と輝かしい未来を築いていくものと確信しております。

結びに、本日の式典をこのように盛大にご準備くださいました進修同窓会役員の皆様、並びに事務局の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

土浦一高に栄光あれ！！

改めまして、卒業周年記念、誠におめでとうございます。

謝 辞

高 28 回卒業生代表 一ノ瀬正樹

本日のこの佳き日に、卒業 60 周年、50 周年、40 周年、25 周年、15 周年を迎えた私たち卒業生のために、このような厳粛なる式典を催していただきました進修同窓会と小野治会長様そして土浦一高の関係者の皆様方に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。卒業生代表としてここで私が謝辞をお伝えすることをお許し願いたいと存じます。

思い返せば、何十年もの昔に私たちはこの土浦一高の学び舎に胸を躍らせて入学し、先生方や同級生たちとの深く思い出に満ちた高校生活を送り、そして社会に世界に羽ばたいていきました。私たち卒業生の心には、この土浦一高での思い出が、いわば活動の源泉をなす岩盤となっているように感じています。

私は大学にて哲学の研究・教育をしている身です。今回このような謝辞をする機会に面し、ふと素朴な疑問を抱きました。はて、私は、あの何十年もまえにこの土浦一高に学んでいた昔の私と、同じ人なのだろうか。そういう疑問です。冷静に考えてみれば、あの頃の私といまの私とで、物理的・生理的そして見栄え的に、はたまた知識や経験的に、著しい違いがあることは明白です。むしろ、事実としては異なる人物である、といった方が説得力がありそうなくらいです。では、なぜあの頃の私といまの私は同じ人である、と私たちは捉えるのでしょうか。これは、哲学の世界では **personal identity** すなわち「人格同一性」の問題として論じられてきました。これはなかなか困難な主題です。

ここで詳論はできませんが、一つだけちょっとファンタジー的な見方を述べます。人格同一性が問題になるのは、過去の自分と同じ原子分子構造や細胞の組み合わせはすでに消滅していると捉えるからです。たしかに自分の **DNA** は昔もいまもずっと同じかもしれませんが、一卵性双生児やヒト・クローンのことを考えると、**DNA** が「この私」の同一性の根拠にはなり難いでしょう。しかし、たとえば私が土浦一高で学んでいたときに発していた声を考えてみてください。声は空気の振動です。その振動が弱まると私たちには聞こえなくなります。けれども、宇宙規模でマクロから超ミクロまで考慮に入れると、人間には聞こえなくても声の振動は減衰しつつも物理的にはずっと残存しているのではないかと考えられます。すなわち、何十年も前の私の声の残滓つまり振動は、私の身体やその周囲、そしてこの土浦一高にも壁や床に反響を繰り返しながら残り続けているのではないかということです。こうしたファンタジー的な見立てでは、過去の私のありようはいまもそこかしこに物理的に残存し続けていることになります。これが、いまの私が過去の私と同じ人であることのかすかなよすがになっているように思うのです。

だとすると、私たち土浦一高の卒業生は、いまもいつでも土浦一高にその存在性を置き残している、いい方を変えれば、いまもいつでも土浦一高といわば合体しているということになるのではないのでしょうか。土浦一高は私たちの構成要素なのであり、私たちは土浦一高の構成要素なのです。あえてそのような思いを抱きつつ、人生 100 年と言われるいま、私たち卒業生も、母校と一体となって前に進み、社会のウェルビーイング実現に向けて貢献していければと心よりこいねがう次第です。本日は本当にありがとうございました。

